

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、吉備の自然を生かした活動や体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

2. 事業の概要

（1）期日・対象

- ① 岡山県内の幼児（未就学の4～6歳児）・小学校低学年とその親
8家族（30人程度）
令和3年7月23日（金・祝）日帰り
- ② 岡山県内の小学校中学年・高学年とその親
8家族（30人程度）
令和3年8月8日（日）日帰り
- ③ 岡山県内の小学生までの子供とその親
8家族（30人程度）
令和3年11月20日（土）～21日（土）1泊2日

（2）参加者

- ① 14家族32人
- ② 9家族20人
- ③ 12家族33人

（3）連携機関

- ① NPO法人チャリティーサンタ（岡山市）
- ② 子どもソーシャルワークセンターつばさ（倉敷市）
- ③ 岡山県母子寡婦福祉連合会
- ④ 岡山市役所岡山っ子育成局子育て支援部こども福祉課

（4）企画・運営のポイント

- ① 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、参加者に来所時の検温、マスクの着用、アルコール消毒の徹底を促した。
- ② それぞれの回で対象年齢を指定し、参加する子供の年齢を考慮し、子供に適した活動が展開できるよう工夫した。
- ③ 余裕を持った時間設定をし、活動内容を詰め込みすぎず、親子でともにゆっくりと活動を楽しめるよう心がけた。
- ④ 第3回は、これまでの回に参加していた家族もいたため、同じ活動内容にならないように当初に予定した活動を変更して行った。

- ⑤ 親の負担が少なく、参加がしやすい日程とするため、仕事の前日にならない連休の中日に期日を設定した。(第1回と第2回)
- ⑥ 参加費無料、無料バス送迎を行うなど、親の負担軽減に努めた。
- ⑦ ひとり親家庭や貧困家庭の支援に取り組んでいる行政やNPO団体と連携し、多くの家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和3年7月23日(金・祝)日帰り

内容	
9:30	受付
10:00	開会式
10:30	森であそぼう!(ネイチャーゲーム) フィールドアスレチック
12:00	昼食(レストラン)
13:00	裸足でチャレンジ! おもしろ自転車
15:00	閉会式 解散・バス送り

②令和3年8月8日(日)日帰り

内容	
9:30	受付
10:00	開会式 アイスブレイク
10:30	親子で野外炊事!
13:00	親子でハイキング
15:00	閉会式 解散・バス送り

③令和3年11月20日(土)~21日(日)1泊2日

11月20日(土)		11月21日(日)	
9:30	受付	6:45	起床・洗面・掃除
10:00	開会式 アイスブレイク	8:00	朝食(レストラン)
10:30	おもしろ自転車 フィールドアスレチック 裸足でチャレンジ! マウンテンバイク	9:00	点検
12:30	昼食(レストラン)	9:30	親子でハイキング
13:30	親子でクラフト	11:00	ブラインドウォーク
15:00	親子で野外炊事!	12:00	昼食(レストラン)
19:00	天体観察	13:00	きびだんごづくり
21:00	入浴	15:00	閉会式 解散・バス送り
22:00	就寝		

(2) 活動の状況

①令和3年7月23日(金・祝)



【森で遊ぼう! ①】



【森で遊ぼう! ②】



【フィールドアスレチック】



【おもしろ自転車】

②令和3年8月8日(日)



【開会式 アイズブレイク】



【親子で野外炊事!】



【親子でハイキング①】



【親子でハイキング②】

③令和3年11月20日(土)～21日(日)



【マウンテンバイク】



【親子でクラフト】



【親子で野外炊事！(薪割り)】



【親子で野外炊事！(調理)】



【親子でハイキング】



【ブラインドウォーク】



【きびだんごづくり①】



【きびだんごづくり②】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：94% やや満足：6%

(2) 参加者の声

- ① ひとり親だと外出するだけでも大変です。コロナ禍で家にいることがほとんどで、私自身もなかなか遊んであげられず、ひとり遊びが多いので、今回は本当にありがとうございました。
- ② なかなか自然と触れあう機会が無いのでよい経験となりました。
- ③ 毎日ゲームばかりの息子ですが、思いっきり汗をかいてよい思い出になったと思います。ありがとうございました。
- ④ とても楽しく活動でき、子供も「次は何？」とわくわくしていました。
- ⑤ 自分が住んでいる地域はひとり親が集うイベントがないので、また参加したいです。
- ⑥ 自分が野外での活動の知識がないので、このようなプログラムを子供に経験させてあげられるよい機会ですし、充実した2日間でした。
- ⑦ 車の運転に自信が無く、コロナで電車も乗れず、体験などに連れていけなかったのですが、今回のキャンプで願いが叶い、とてもうれしかったです。

(3) 成果

- ① 外部団体と連携し広報協力を依頼したことで、ひとり親家庭を支援するメール配信や、団体が計画するイベントでチラシを配布してもらうことができた。
- ② 1回目と2回目は対象年齢を指定して実施したことにより、参加年齢に応じた活動内容を取り入れることができた。3回目では、天体や星の観察など宿泊でしか体験できない活動プログラム「天体観察」を行った。
- ③ ひとり親家庭が集まる場の創出として、送迎の実施や参加しやすい日時の設定などひとり親家庭のニーズに合った事業を行うことができた。
- ④ 今年度より始めた事業であるが、多くの関係機関と連携協力ができ、対象を限定した事業であっても多くの応募や参加をいただいた。様々な体験を与えられにくい家庭に対し、よい体験の場を提供することができた。

(4) 今後の課題

- ① 屋外の活動を中心としたこともあるが、第3回では子供たちのけがが多かった。コロナ禍で子供たちの遊びや体験活動の機会が減ったこと、スタッフの人数がそろっていなかったことなどの原因が考えられるので、今後の事業については活動前の十分な準備運動、十分なスタッフの確保、参加人数の調整などの対策を行っていく。
- ② ひとり親家庭にメール配信されている地域や、連携している団体の活動地域など、事業の情報が届く家庭の地域が限定されているので、今後はより多くのひとり親家庭支援のために、県内広くに広報できるように行政や支援する組織との連

携強化を図っていききたい。

- ③ コロナの影響で予定されていた事業が延期となり、元々予定していた本事業との実施時期が重なったり、ボランティアの事業が重なったりしたことで、関わる職員や参加するボランティアが少なくなった。ゆとりある運営のため、事業の実施時期について検討していく。
- ④ 参加した保護者から、「一人で頑張っているのは私だけではないんだ、他のお母さんの姿を見て元気をもらえた。」の感想をいただいた。ひとり親家庭が集うイベントへのニーズが高いため、今後は事業の中で保護者同士が語り合い、交流できる時間も設けていきたい。

担当：主任企画指導専門職 乗本 雅彦